

子育て・教育

■待機児童の解消

鎌ケ谷市での待機児童数は平成23年1月1日時点で30人ですが、市への申請件数は167人です。鎌ケ谷市の未来を担う子どもたちを安心して出産し育てやすい社会の実現に取り組めます。

- 空き店舗やUR賃貸住宅の空き室、財務省所管初富住宅の空き室を活用した保育ママ制度の実現
- 広域的での保育士人材バンクの創設を提案

■児童生徒の学力向上

平成22年度の全国学力テストは西部小学校、第二中学校、第三中学校が実施。結果は全国平均とほぼ同程度であるが、応用力や活用力においてやや下回っている状況。公立学校に通ってよかったと思われる公教育を目指します。

- 地域住民やボランティアの力を借りた土曜日の自学自習教室の設置
- 小学校における教科担任制の導入
- 外国語授業ができる人材の採用を提案

■学童保育等、子どもたちの居場所の充実

放課後や週末に子どもたちが安全で安心して遊べる空間や生活の場を確保することで、子どもを育てやすい街を目指します。

- 公民館やコミュニセンター、自治会館での居場所づくりを提案
- 図書館を利用した各世代との交流の場としての居場所づくりの提案

◎義援金

鎌ケ谷市で義援金を社会福祉課や公民館等、図書館本館、コミュニティセンター、千葉県共同募金会鎌ケ谷市支会(鎌ケ谷市社会福祉協議会)で受け付けている。休館日や受付時間等は社会福祉課に問い合わせ下さい。(平成23年9月28日まで)

健康・福祉

■福祉・救急医療の充実

市民の誰もが身近な地域で安心して生活できる地域ケアシステムを目指します。

- 救急医療情報キットの導入
- 介護支援ボランティア制度の導入
- 特別養護老人ホームの整備

■子ども医療費の助成

鎌ケ谷市の助成制度は県の基準に沿って、入院、通院の対象年齢は小学3年生、自己負担金は300円、所得制限についても設定されている。近隣の市と比較すると鎌ケ谷市は最低の水準。財政状況を勘案し、段階的に年齢の引き上げを目指します。

地域活性

■商工業、農業の振興

持続可能なまちづくりには、市内産業の振興、雇用の創出が必要不可欠です。鎌ケ谷市内における産業の活性化を推進します。

- 省エネルギー街路灯の推進
- 耕作放棄地の仲介事業を提案
- 環境保全型農業エコファーマー制度の推進

未曾有の震災により、自治体の運営や政策のあり方が問われていますが、防災に対する取り組みはもちろん、都市基盤整備や福祉、子育て、教育、地域活性など、総合的な街づくりが必要不可欠です。

◎水道水

鎌ケ谷市が受水している北千葉広域企業団の「浄水」に含まれる放射性ヨウ素131の分析はほぼ毎日実施。国が示した乳児による水道水の摂取を控える指標は1キログラムあたり100ベクレル以上です。検査結果は北千葉広域企業団のホームページで公表しているので確認ください。